

復興「ありがとう」 ホストタウンについて

平成29年12月11日

内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局

復興「ありがとう」ホストタウンの新設について

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局は、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の自治体に対し、これまで支援してくれた海外の国・地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流を行うホストタウンを「復興『ありがとう』ホストタウン」として新設し、2020年に向けた交流を全面的に支援。

復興「ありがとう」ホストタウンとは

- 交流相手の主体を「被災時等に支援してくれた方々」も
被災時に現場に入って支援してくれた各国のレスキュー隊員や、支援物資等を送ってくれた方々など、復興に貢献頂いた方々を被災地に招いた交流を行う。
- 交流を機に「復興プロセスの発信」を
交流の機会に復興のプロセスの説明や、各地の被災地ツアーの参加などを行い、被災地の過去と現在の紹介を実施。
- 東京大会開催後の大会関係者との交流を重視
2020年の東京大会の競技終了後に、相手国・地域の選手等とリラックスした状況での交流を重視。

※国・県が連携しホストタウン登録前の自治体を公募し、登録に向けて全面的にバックアップ。

【交流のイメージ】

- ・和太鼓の支援を受けた小中学生が支援を頂いた国の子どもたちと交流
- ・コミュニティホール建設の支援を受けた自治体が支援を頂いた国の関係者と同ホールで交流
- ・従来から学校建設の支援をしていた国から震災時に受けた支援へのお礼を兼ねて交流

復興「ありがとう」ホストタウン 岩手県大船渡市(米国)

震災時に受けた支援



- ・平成23年4月から7ヶ月間、ボストンの「オールハンズ・ボランティアズ」のメンバー延べ1,500人が大船渡市に滞在し、被災した民家の修復やがれき処理等に従事。メンバーは、地域の祭りやイベントなどにも積極的に参加して国際交流。
- ・このほか、州立大学等から英語教育を含む心のケア、野球を中心とした中学生交流等の支援。



オールハンズ・ボランティアズへの感謝状・大漁旗贈呈(米国にて)



三陸大船渡夏祭り



大船渡マラソン大会

取り組もうとする事業の概要

- ・「三陸大船渡夏祭り」や「盛町七夕祭り」、マラソン大会等に子どもたちを招待したい。
- ・米国から一流のトレーニング・コーチを招へいし、地元の中高生の陸上部員に、陸上競技のトレーニング・プログラムを実施したい。

当面の取組

- ・まずは、来年2月頃、米国大使館の外交官に市を訪問してもらい子どもたちと交流してもらう予定。

復興「ありがとう」ホストタウン 岩手県花巻市(米国・オーストリア)

震災時に受けた支援



【米国】

・震災発生直後から、ホットスプリングス市及びラットランド市から多額の義援金や、励ましのメッセージをいただき、大きな支援を得た。小学2・3年生から、204通のメッセージカードが、市の宿泊施設に避難していた被災者に届いた。

【オーストリア】

・友好都市のオーストリア共和国ベルンドルフ市から義援金をいただき、市長等から励ましのメッセージをいただいた。



レイクハミルトン小学校からのカード



募金のためのパレード



イーハトーブハーフマラソン大会

取り組もうとする事業の概要

- ・花巻市ハーフマラソン大会にホットスプリングス市の市民ランナーを招待。
- ・姉妹・友好都市の市民・生徒等との相互交流を行い、日本文化、伝統ある祭りや民俗芸能等の郷土色豊かな交流を実施。
- ・東京大会では両国が出場する競技会場に市民がかけつけて応援。

当面の取組

- ・まずは、米国関係者を招いた野球教室の開催による交流を予定。

復興「ありがとう」ホストタウン 岩手県野田村(台湾)

震災時に受けた支援



- ・ 東日本大震災に際し、台湾の台湾佛教慈濟基金会から全被災世帯へ義援金を頂いた。
- ・ 大阪大淀ロータリークラブを通じ台北中正ロータリークラブから中学校に和太鼓5基の提供を受けるとともに、大阪中之島ロータリークラブを通じ台北福齡ロータリークラブから小学校へ楽器やスポーツ用具の支援を受けた。



寄贈された太鼓を使用した演奏会

取り組もうとする事業の概要

- ・ 中学生代表が台湾ロータリークラブを訪問し、感謝を伝え、同クラブや台湾陸上選手へのインタビューを行い、その内容をポスター等で表現し、村民に報告。
- ・ ロータリークラブ、オリンピック、子どもたちに来訪してもらい、復旧復興した街並み、中学校の創作太鼓の演奏をみてもらう。



昔使用していたタイヤの太鼓

当面の取組

- ・ まずは、来年1月に子どもたちが台湾を訪問し、ロータリークラブを訪問。

復興「ありがとう」ホストタウン 岩手県陸前高田市(シンガポール)

震災時に受けた支援



・シンガポール赤十字社より、「陸前高田市コミュニティホール」の建設費用の支援。収容人数380名の最大のホールは、シンガポールへの感謝と友好関係に因んで「シンガポールホール」と名付けられ、2015年5月の利用開始以降、2017年9月までの利用者数は合計219,310名となっており、講演会やコンサートなど様々な用途で広く市民に有効活用されている。



支援に対する感謝状の贈呈



支援により整備されたホール

取り組もうとする事業の概要

- ・中高生が震災後の支援に対する感謝の気持ちを表すポスター等を制作し、市民及び星国民の理解向上・交流への機運醸成を図る。
- ・選手、家族等に歓迎・感謝の意を伝えるレセプション、震災からの復興状況を発信するツアー、高田松原再生のための記念植樹等を実施。

当面の取組

- ・まずは、感謝の気持ちを表すポスターを制作する予定。



World Cities Summit の参加

復興「ありがとう」ホストタウン 岩手県釜石市(オーストラリア)

震災時に受けた支援



- ・震災当時、釜石シーウェイブスRFCに所属し、後にラグビーオーストラリア代表となったスコット・ファーディー選手は、大使館からの避難勧奨を断り、釜石市のためにボランティアとしてチームメイトとともに救援物資の集積場で物資の積み降ろしや搬送作業に奔走。
- ・国内の姉妹都市である愛知県東海市を通じて、中学生の海外体験学習事業として平成26年度からビクトリア州マセドンレンジズ市に釜石市の中学生を受け入れていただいている。



スコット・ファーディー選手

取り組もうとする事業の概要

- ・スコット・ファーディー選手等オーストラリアのラグビー関係者を釜石に招き、ラグビーを通じて、市民や関係者との交流を図る。
- ・中学生の海外体験学習事業を行っているマセドンレンジズ市の生徒を招き、感謝の気持ちを伝えると共に、市内で最も被害が大きかった鵜住居地区に整備する祈りのパーク等の見学を通じて、震災と復興の現状を伝える機会を設ける。



中学生をオーストラリアに派遣

当面の取組

- ・まずは、ファーディー選手を釜石市に招待し、復興した姿を見てもらう予定。

震災時に受けた支援



- ・平成23年3月30日、メルビン駐日デンマーク大使が東松島市災害対策本部を訪問し、寄付金や子供たちのおもちゃ（レゴ）を寄付。
- ・同年6月、フレデリック皇太子が行幸され、保育所、小学校、避難所等を回られた。同国寄付金を原資に「デンマーク友好子ども基金」が創設、デンマーク女王陛下や多くのデンマーク企業から寄付。



H23.6.フレデリック皇太子行幸

取り組もうとする事業の概要

- ・東松島夏まつりに招待し、市民と交流。おもちゃをもらった子どもたちとの交流や、プール・遊具を整備してもらった小学校・保育所での交流
- ・大会後デンマーク代表と市民のスポーツ交流及び講演会



H29.10.フレデリック皇太子行幸

当面の取組

- ・まずは、来年1月頃、市幹部が被災時に支援を受けた企業等を訪問し感謝の気持ちを伝えるとともに、今後の交流について働きかけを行う。

震災時に受けた支援



・平成23年5月、ペルージャ市よりサッカーチャリティイベントの収益金が寄贈された。また、同年9月、ベガルタ仙台ジュニアユースU-14の少年達をASローマとのサッカー交流を通じて励ます遠征が受け入れられた。

・平成25年12月、イタリア国立クレモナ弦楽器制作学校から仙台ジュニアオーケストラにヴィオラ4本が寄贈された。



イタリア大使館主催ナショナルデー・レセプションにおける、寄贈されたヴィオラによる日伊両国の国歌演奏の様子。



平成29年9月、ペルージャの選手を含むイタリアU19セリエB代表チームを招聘し親善試合を実施。

取り組もうとする事業の概要

・震災遺構の見学や震災情報の発信等を行う。東京大会終了後、津波被害を受けた学校の生徒等との交流事業を行う。

・大会終了後、ヨーロッパ有数の地震国であるイタリアの政府関係者等を招き、防災環境の推進に関するシンポジウムを開催する。

当面の取組

・青少年交流事業の中でイタリアチームを招聘する際に、震災遺構の見学や復興誌の配布などを行うなど、被災状況や復興の様子を伝えていく。



イタリアU19セリエB代表チームによる震災遺構見学の様子。

震災時に受けた支援



・ラオスとは、「学校を作るお手伝いをしよう」と子供たちが募金活動を開始し、村もふるさと納税を開始。平成23年2月には職員がラオス・ドンニヤイ村を訪問、絵本を現地の学校に寄贈した。

・震災後は、ドンニヤイ村民が飯舘村のために祈りをささげた。同村中学校、同校長より激励の手紙が送られた。小中学生から激励メッセージ入りのこいのぼりが届けられるなど交流が継続。



飯舘村の支援で建設された学校



激励の鯉のぼり



ドンニヤイ村の生徒が村を訪問

取り組もうとする事業の概要

・ラオスの子どもたちや在京ラオス大使館の方々を学校行事や村のイベントに招待。

・飯舘村では震災前より、福島県で行われる市町村対抗福島駅伝に毎年参加しており、陸上に関する講演、指導等の交流を実施。

当面の取組

・来年予定されているラオスからの視察団を迎え入れるための準備を実施。

震災時に受けた支援



【ジブチ】

・ジブチ共和国イスマイル・オマール・ゲイ大統領が、「TIME誌」により市長のことを知り寄付を希望。平成24年4月にアホメド・アライタ・アリ駐日ジブチ共和国大使館特命全権大使が来市し、市長に対し大統領及び国民からのお見舞いの言葉及び義援金を寄付。

【台湾】

・平成23年11月、台湾三重北區ロータリークラブ等から給食用運搬車両1台の寄付。台北市当局より「原発事故の影響で屋外での運動ができない南相馬の子どもたちを招待したい」との話をいただき、同年12月に台北市内で開催された「中学生野球交流大会」に本市中学生が招待。このほか、米国や韓国からの支援を受けた。



▲アリ大使から義援金贈呈



▲一千有余年の伝統を誇る国指定重要無形民俗文化財 相馬野馬追



▲市内外から約3,400名のランナーが集う野馬追の里健康マラソン大会

取り組もうとする事業の概要

・相馬野馬追祭、マラソン大会に招待するほか、約30施設ある市内のスポーツ施設で、地元のこどもたちのスポーツ交流を実施。伝統ある市の文化民俗(祭・食)等を体験する交流を実施。

・ジブチ共和国とは陸上・空手道競技の指導者・こどもたち同士の交流を実施。台湾とは野球競技の指導者・子どもたちを招待し交流。米国とはサーフィン競技、韓国とは柔道競技に関して交流を実施。

当面の取組

・まずは、ジブチに空手師範を派遣し、交流を実施。

震災時に受けた支援



- ・平成24年7月、ロンドン中心部に「福島庭園」を整備。
- ・市では、子どもが安心して遊べる場所を確保するため平成26年12月に「スマイルキッズパーク(愛称: プリンス・ウイリアムズ・パーク)」を整備。同所を平成27年2月ケンブリッジ公ウイリアム王子が訪問され、記念植樹をされるとともに子どもたちを慰労。
- ・平成29年7月、本市のプリンス・ウイリアムズ・パーク「英国庭園(同年11月開園)」とロンドンの「福島庭園」が姉妹庭園覚書を締結。



ウイリアム王子訪問のご様子



本宮市英国庭園オープン記念式典

取り組もうとする事業の概要

- ・子どもたちが英国を訪問し、同市の食、生産物、暮らしの状況を伝え、交流を深める。英国の子どもたちに来てもらい、「プリンス・ウイリアムズ・パーク」等訪問、収穫祭体験など交流を行うとともに、テレビ電話などで学校単位による相互交信を実施。
- ・出場選手等に、応援団として郷土食や本市の日本酒・お菓子等の特産品を届ける。



英国「福島庭園」での植樹

当面の取組

- ・子どもたちを英国に派遣し、子ども同士の交流を実施。

震災時に受けた支援



- ・震災の被害を知った台湾舞踊家協会が、平成23年6月村に避難している被災者を激励するため、村内4ヶ所で慈善公演を開催。
- ・中学生台湾派遣交流事業を平成24年より実施しており、村の中学生が毎年、台湾を訪問し、現地の中学生と交流を実施。
- ・平成26年8月、台湾観光協会により台湾の伝統舞踊団「台湾傳鍊堂綜合芸術団」が当村を訪問し、台湾獅子舞や台湾龍神舞を披露している。



台湾舞踊家協会による慈善公演＝平成23年



台湾獅子舞などを披露した台湾傳鍊堂綜合芸術団
＝平成26年

取り組もうとする事業の概要

- ・交流相手の中学生を招き、村の中学生と交流。震災後にお世話になった舞踊団の皆様にも来村していただきたい。当時、慰問を受けた避難者の方も招いて、交流会などを実施。
- ・村で盛んなバドミントン、卓球競技の台湾代表選手を、大会終了後に村に招き、交流会等を実施。

当面の取組

- ・まずは、台湾の方々を村に招待し、村の方や避難されていた方々と交流。



中学生台湾派遣交流事業